

一笑会例会資料 (2/4/2023)

	頁
1. 信長・秀吉・家康データ	2
2. 東京の地形	1
3. 17世紀の大都市計画…江戸の町作り	2
4. 徳川時代主要年表	5
5. 明治初期の人口・户数表 (明治7年)	1
6. 世界・日本の人口データ	1
7. 災害総合年表 (噴火・地震・雷・火事・雪…)	8

久保田秀夫

20

上. 信長・秀吉・家康データ

2023/2/4

◆織田信長：

◆豊臣秀吉：3才年下 (対信長)

◆徳川家康

1534 織田信秀の子として尾張で誕生

8才年下 (対信長) / 5才年下 (対秀吉)

1537 尾張に生まれる(百姓の子)

1546 元服し、上総介(信長)と称す

1542 三河岡崎城主松平広忠の嫡子として

岡崎城内で誕生 (幼名、竹千代)

1549 駿河、今川義元の人質となる(7)

1551 父信秀死、家督を継ぐ(18)

1554 織田信長に仕える(18)

・小者頭→足輕→木下藤吉郎

1560 桶狭間の戦いで今川軍に圧勝(27)

(資料に現れる・・・1564年、28才)

1560 義元が討たれ、岡崎城に帰る(18)

松平元康と名乗る

1567 斎藤達興を攻め、稲葉山城を落とす
美濃を平定(34)

・美濃の斎藤達興の家臣に対する勸降工作
・美濃攻めの足がかりとなる墨俣城の
築城に成功、信長に認められる

1562 織田信長と同盟し、三河を平定(20)

1568 足利義昭を奉じて上洛

1568 遠江を獲得して浜松に移る(26)

1569 キリスト教の布教を許可する

1576 オランダ使者(オランダ)

1570 石山本願寺との戦いが始まる(37)

1570 信長が越前に攻め込んだ際に浅井長政がXX,
殿軍を希望し武名を上げる(34)

1571 比叡山延暦寺を焼き払う

1572 三方原で武田信繁に敗れる(30)

近江の浅井、越前の朝倉連合を
姉川の戦いで破る(38)

1573 将軍義昭を追放(室町幕府滅亡)(40)

1573 近江の浅井氏が滅亡した際に近江3郡12万石
を与えられ一國一城の大名となり、長浜を
居城とした(37)

1575 信長とともに長篠の戦いで武田勝頼を
破る(34)

1576 安土城を建築(43)

1576 中国経略を命ぜられ、姫路城を居城としながら
播磨、備前、美作、因幡と次々平定していく(40)

石山本願寺攻撃開始

(得意戦法：秤量攻め)

◆織田信長：

◆豊臣秀吉：3才年下 (対信長)

◆徳川家康：5才年下 (対秀吉)

1582 甲州攻めを始める。

本能寺の変で自刃(49)

1582 岡山備中高松城・；攻囲(46)

6月本能寺の変→京都 山崎の戦い

1583 賤ヶ丘の戦いで柴田勝家を破る(47)

1584 小牧・長久手の戦い(48)

1584 小牧・長久手で豊臣秀吉と戦う(41)

1585 関白就任(49)

1587 島津氏服従し九州を平定(51)

1590 小田原市の北条氏を滅ぼし全国統一完成(54)

1590 関東に転封され、江戸城に入る (47)

1592 文禄の役(56) <第一次朝鮮出兵>

(北条氏の旧領を与えられる) ◇

1597 慶長の役(61) <第二次朝鮮出兵>

1598 伏見城で病死(62)

1598 豊臣氏の五大老の筆頭となる(55)

◇ 旧：駿河、遠江、三河、美濃、信濃(150万石)

1600 関ヶ原で大勝(59) <東軍> ▲

新：武蔵、伊豆、相模、上野、下野、常陸の一部、

1603 征夷大将軍になり、江戸幕府を開く(62)

下総、上総国(256万石)

1605 將軍職を秀忠に譲り、駿府城に移る(65)

▲ 家康が武士達に土地を配り、取り上げ、安堵した。

1615 大坂夏の陣で豊臣氏を滅ぼす(75)

江戸幕府の成立。

武士との主従関係 (秀吉→家康)

1616 駿府城で病死(75)

江戸幕府・・・長命の秘訣

1) 禄高を低く抑える

・ 譜代大名の多くが、20万石以下

・ 旗本は1万石未満に抑える

2) 長子相続、御三家、三卿 (一橋、清水、田安)

△3代家光までが、天下に号令する実績作り時期

2. 東京の地形

図1 東京低地

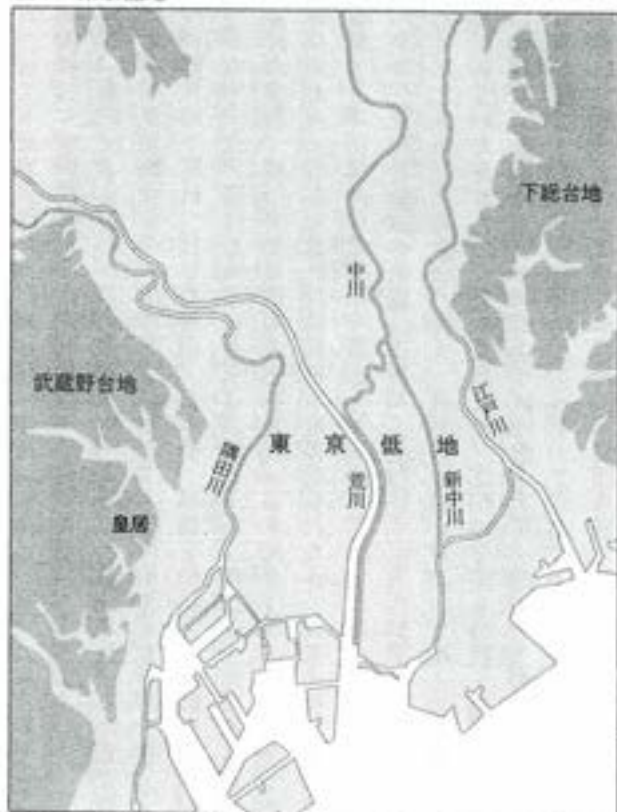


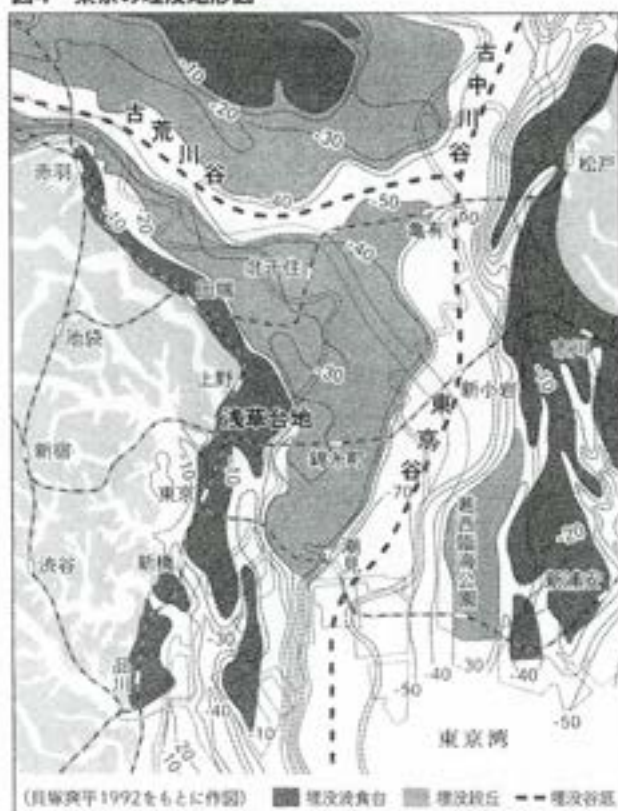
図2 「縄文海進」時の想定海岸線 7000年前頃



図3 東京低地の地形分類



図4 東京の埋没地形図



(貝塚興平1992をもとに作図) 縄文海進によって海水面の上昇とともに、海岸線が関東の内陸部へ入り込んでいくが、その際に、台地上部を構成する関東ローム層などの軟質の土壌は、波によって海と接する縁部が浸食されて、台地の基盤となる硬質面が海中に残る。これが波食台と呼ばれるものである。縄文海進以後、上流部から土砂が堆積し、波食台は土砂に覆われて地中に埋もれてしまうが、それを埋没波食台と呼ぶ。本来は上位と下位の2つの埋没波食台があるが(貝塚1992)、本図では簡的に一括に表わしている。

3. エドのまちづくり

ホーム > 日本史の歴史 > 17世紀の大都市計画—江戸のまちづくり



江戸文化

17世紀の大都市計画—江戸のまちづくり

1608年頃の江戸

f 0

16世紀末に徳川家康が入府した江戸には、1457年に建てられた中世以来の江戸城と戦乱で荒廃した城下、港町の集落と周辺の村々がある程度で、家康と大勢の家臣団が居住するには狭すぎるものだった。家康は、最初に城の拡充に着手し、建築資材や農米などを江戸湾から舟で城に直接運ぶための水路を開き、城の工事で開削した堀の揚土で日比谷の入江を埋め立てた。城の周囲には家臣団の屋敷を配置した。そして、城の常盤橋門外から東の浅草方面へ向かう街道に沿って本町の町割りを行った。本町とは「江戸の根本の町」という意味で、道幅を約12mとし、通りの南北両側に幅・奥行きとも約120mずつの町地を造成して、これらの町に商人を居住させている。金庫や町年寄などの屋敷もこの本町に沿って配置された。



家康は1603年に征夷大将軍となって幕府を開くと、江戸を全国の政治・経済・文化の中心地にするための本格的都市計画事業を開始した。この事業は「天下普請」と呼ばれ、全国の大名には普請工事「御手伝普請」が賦課された。おもに西日本の大名に対しては、千石夫といって所領千石につき人夫10人の労役供出が命じられた。このとき神田山を掘り崩して砂洲や干潟等の低湿地を埋め立て、浜町から新橋にかけての町々となる広大な市街地を造成した。この工事では城郭拡充用の水路を東に延長して日本橋川を開き、日本橋が架けられた。1604年にはこの日本橋に五街道の起点が設定された。また江戸城拡充工事によって、廓内や旧城門前にあった宝田村・千代田村や、平河天神・山王社、神田明神・日輪寺といった寺院・神社を周辺に移転させている。



新たに造成された土地は、諸大名や旗本の屋敷、移転社寺の代替地となったほか、日本橋を中心としてこの南北に新橋・京橋・日本橋・神田を貫く目抜き通りがつくられ、通りにも住む町々が割り付けられた。とくに日本橋の南北の通町と宝町から神田までの地域は、事前に関与されていた本町通りとともに、諸国の商人と諸職人などが集住し、幕府と諸大名らが必要物資や労役を調達する町人地となり、山の手の武家地に対して「下町」と呼ばれた。このとき起立した江戸の町には、数河町・尾張町・加賀町・因幡町などの国名を付けたものがあったが、これは工事担当の大名の国名を冠したものだ。また材木町・本石町・鉄砲町・本軍屋町・金炊町・廻屋町・桶町などの町名は幕府の御用を勤めた商人・職人が居住したことに因んで名付けられた。

こうして1640年頃までに、江戸は天下の城下町としての初期整備を終えたが、これは軍事都市的な性格を帯びたものだった。当時の江戸市街のイメージは国立歴史民俗博物館所蔵の『江戸図屏風』などで伺い知ることができる。

この江戸の都市構造が根本的に改造されるのは1657年の「明暦の大火」だった。この大火は江戸市街のほぼ60%を焼き尽したが、これを機に幕府は、江戸の町を防災都市へと構造的に転換させることになった。道路の拡張、防火の土手、市中から隅田川東岸に渡る両国橋の架橋、築地地域の埋め立て、両国や江戸橋の広小路設置、大名・旗本の屋敷の移転再配置、寺社の周辺部への移転などが行われた。この結果、江戸の市街地は大きく拡大して、18世紀以後の100万都市に向かって発展することになった。

17 世紀の大都市計画—江戸のまちづくり

16 世紀末に徳川家康が入府した江戸には、1457 年に建てられた中世以来の江戸城と戦乱で荒廃した城下、港町の集落と周辺の村々がある程度で、家康と大勢の家臣団が居住するには狭すぎるものだった。家康は、最初に城の拡充に着手し、建築資材や蔵米などを江戸湾から舟で城に直接運ぶための水路を開き、城の工事で開削した堀の揚土で日比谷の入江を埋め立てた。城の周囲には家臣団の屋敷を配置した。そして、城の常盤橋門外から東の浅草方面へ向かう街道に沿って本町の町割りを行った。本町とは「江戸の根本の町」という意味で、道幅を約 12m とし、通りの南北両側に幅・奥行きとも約 120m ずつの町地を造成して、これらの町に商人を居住させている。金座や町年寄などの屋敷もこの本町に沿って配置された。

家康は 1603 年に征夷大將軍となって幕府を開くと、江戸を全国の政治・経済・文化の中心地にするための本格的都市計画事業を開始した。この事業は「天下普請」と呼ばれ、全国の大名には諸工事「御手伝普請」が賦課された。おもに西日本の大名に対しては、千石夫とって所領千石につき人夫 10 人の労役供出が命じられた。このとき神田山を掘り崩して砂洲や干潟等の低湿地を埋め立て、浜町から新橋にかけての町々となる広大な市街地を造成した。この工事では城郭拡充用の水路を東に延長して日本橋川を開き、日本橋が架けられた。1604 年にはこの日本橋に五街道の起点が設定された。また江戸城拡充工事によって、廓内や旧城門前にあった宝田村・千代田村や、平河天神・山王社、神田明神・日輪寺といった寺院・神社を周辺に移転させている。

新たに造成された土地は、諸大名や旗本の屋敷、移転社寺の代替地となったほか、日本橋を中心としてこの南北に新橋・京橋・日本橋・神田を貫く目抜き通りがつくられ、通りにももの住む町々が割り付けられた。とくに日本橋の南北の通町と室町から神田までの地域は、事前に開発されていた本町通りとともに、諸国の商人と諸職人とが集住し、幕府と諸大名らが必要物資や労役を調達する町人地となり、山の手の武家地に対して「下町」と呼ばれた。このとき起立した江戸の町には、駿河町・尾張町・加賀町・因幡町などの国名を付けたものがあったが、これは工事担当の大名の国名を冠したものだ。また材木町・本石町・鉄砲町・本草屋町・金吹町・紺屋町・桶町などの町名は幕府の御用を勤めた商人・職人が居住したことに因んで名付けられた。

こうして 1640 年頃までに、江戸は天下の城下町としての初期整備を終えたが、これは軍事都市的な性格を帯びたものだった。当時の江戸市街のイメージは国立歴史民俗博物館所蔵の『江戸図屏風』などで伺い知ることができる。

この江戸の都市構造が根本的に改造されるのは 1657 年の「明暦の大火」だった。この大火は江戸市街のほぼ 60 % を焼き尽したが、これを機に幕府は、江戸の町を防災都市へと構造的に転換させることになった。道路の拡幅、防火の土手、市中から隅田川東岸に渡る両国橋の架橋、築地地域の埋め立て、両国や江戸橋の広小路設置、大名・旗本の屋敷の移転再配置、神社の周辺部への移転などが行われた。この結果、江戸の市街地は大きく拡大して、18 世紀以後の 100 万都市に向かって発展することになった。

図13 本町通り(原本町通り)と日本橋通り



(玉井哲雄 1986 をもとに作図)

図12 家康入部前の中世江戸



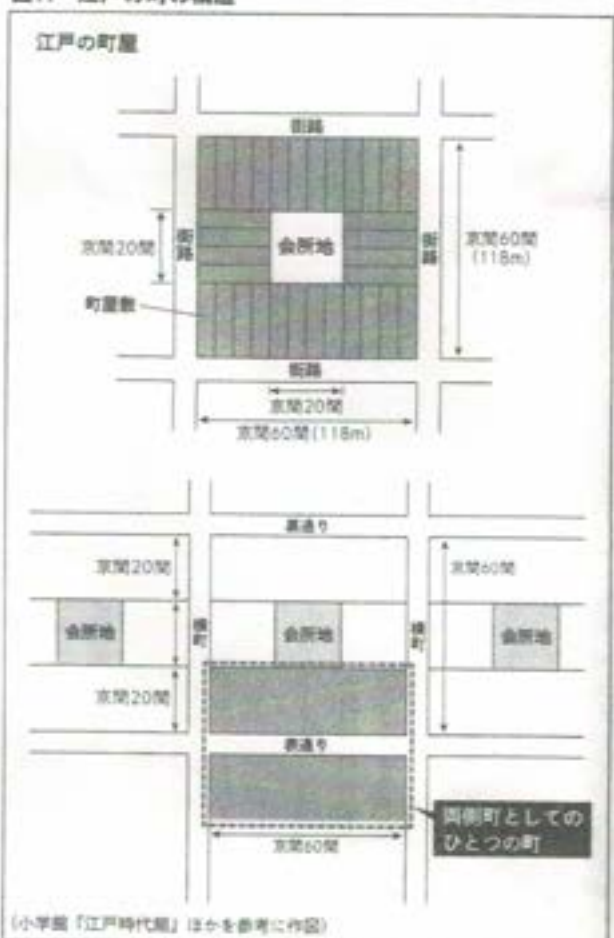
(鈴木理生 1991 をもとに作図)

図8 江戸城の内郭と外郭



寛永初期の江戸を描いた『武州豊後郡江戸庄図』(国立国会図書館蔵)

図11 江戸の町の構造



(小学館『江戸時代』ほかを参考に作図)

4. 徳川時代主要年表

政治

社会生活

一覧表

2023/2/4

海外

(1)	1590 関東に転封され、江戸城に								
	1598 豊臣氏の五代長老となる (家康55才)								1. 家康 0
家康	1600 関ヶ原戦 (東軍、西軍を破る)								2. 秀忠 18
	1601 板倉勝重、京都所司代となる (~1619)								3. 家光 23
	1602 二条城なる								4. 家綱 29
	1603 家康、征夷大将軍となり、江戸幕府を開く								5. 綱吉 29
	江戸市街拡張、日本橋修造								6. 家宣 3
(2)	1605 家康将軍を辞し、秀忠征夷大将軍になる								7. 家継 4
	・キリスト教を禁止 (1612)								8. 吉宗 29
	1609 西国大名の人質を江戸に集める。500石積以上の船を没収								9. 家重 15
秀忠	1615 大坂夏の陣→秀頼(23才自刃)豊臣氏滅ぶ。								10. 家治 26
<18>	一國一城、武家諸法度(13条)、禁中並公家諸法度を制定(17条)								11. 家斉 51
	1616 家康死去(75才)、ヨーロッパ船の来貨を平戸・長崎に制限、								12. 家慶 16
	煙草栽培、人身売買の禁止								13. 家定 5
	1619 徳川頼宣を和歌山に移す (御三家成立)								14. 家茂 8
	養蚕廻船始まる。箱根関所設置、五人組制度								15. 慶喜 2
	広島城主福島正則の領土没収。								
	1622 外様大名の妻子を江戸に置く								
(3)	1623 福井藩主松平忠直を豊後に流す。家光参内、将軍宣下。								
	1624 徳川秀忠の女和子、中宮となる (東福門院)								
	1632 徳川秀忠 (54)。熊本城主加藤忠広を庄内に流す。大目付設置。								
家光	1633 六人衆 (若年寄) 設置。								
<23>	1634 老中・若年寄の職を定む。譜代大名の妻子を江戸に置く。								
	1635 参勤交代制の確立。寺社奉行設置。								

- 1. 家康 0
 - 2. 秀忠 18
 - 3. 家光 23
 - 4. 家綱 29
 - 5. 綱吉 29
 - 6. 家宣 3
 - 7. 家継 4
 - 8. 吉宗 29
 - 9. 家重 15
 - 10. 家治 26
 - 11. 家斉 51
 - 12. 家慶 16
 - 13. 家定 5
 - 14. 家茂 8
 - 15. 慶喜 2
14. 平均 19.7年
- 266 (134代)

4. 徳川時代主要年表 (5枚) ... 2/5 がここ-板で印刷して迷わず。

1638 2月島原の乱 (前年10月～) 平らぐ。大老を置く。
 1644 諸大名に国絵図作成を命ずる 1639 大久保彦左衛門(80)
 1651 徳川家光 (48) 。 由井正雪の乱

軍船を除き500石以上の大船建造を許す
 江戸大火(2000戸焼失_1641)
 諸国飢饉 (1642) 、大名・旗本に倭約令(1649)

(4) 1651 徳川家綱

1657 江戸明暦の大火。 江戸城本丸焼失 (死者10万)

玉川上水竣工(1654)
 西日本大地震(1662)

1658 江戸定火消しの制

江戸大火(1668)。倭約令。

家綱 1663 殉死を禁ずる。

西日本洪水。福井・中津大火(1669)

<29> 1665 大名の人質を廃する。

1662 松平信綱(67 知忠伊豆)

武蔵野の開拓始まる(1669)

東海道・関東洪水。越後村上大地震。大阪津波。

1671 : 仙台伊達騒動

諸国飢饉(1674)

1672 保科正之(62)

関東地方に鉄砲私蔵を禁じる(1667)

1680 徳川家綱(40)

1675 阿部忠秋(74)

諸国暴風雨洪水(1678)

(5) 1680 徳川綱吉

1687 生類憐みの令発布

水戸大火、米価騰貴、江戸府内飢民多し(1681)

綱吉 1690 上野の孔子廟を神田に移す(1690)

河村瑞賢、淀川を開く(1683-87)

<29> 1694 柳沢吉保、老中格となる

元禄模倣流行(1690)

各駅助郷を定める(1694)

1700 日光奉行設置、徳川光圀(73)

新田の開発盛んに(1701)

浅野遺臣、吉良義央を討つ(1700)

(6) 1709 生類憐みの令廃止、3800人を恩赦。

諸国大地震。富士山噴火 (宝永山噴出) (1707)

家宣 武家諸法度修正(1710) 大老・井伊直X

宝永通宝新鋳。大坂に物価引下令を出す(1708)

<3>

江戸大火、西国・東海道大風雨。

(7) 1712

翌年も諸国大水害(1711)

家継

<4>

1716

大岡忠相(越前守)を町奉行に登用(1717)

(8) 目安箱設置(1721)

上米の制を設け、参勤交代を緩める。新田開発奨励(1722)

<29>

公事方御定書(刑法の部=御定書百箇条)を定める(1742)

1745

(9)

家重

<15>

1760

関東の農民20万の大一揆(1765)

(10) 大阪の一揆。佐渡の一揆((1768)

家治 百姓の強訴取締令(1769)

<26> 飛罪の一揆、近藩出兵する(1773)

天明の大飢饉(奥羽より全国に及び) (1783-88)

信濃の農民、代官に強訴(1777)

1786 松平定信、老中筆頭となり(-93)、倭約令を発す(1787)

この頃農民一揆、連年10件を越す

(11) 天明の打ち壊し、米価高騰し、江戸・大阪の町人等騒乱 (1787)

家斉

<51> 伊能忠敬、蝦夷地を測量(1800)

江戸火消しいろは組創設(1720)、江戸大火。

江戸大火6度、**14万戸焼失**、新規の呉服禁止(1721)

小石川薬園拡張(1721)

小石川療養所設立(1722)

3年間の倭約令。諸国に麻疹流行(1731)

関東大水害(1742)

諸侯留守居役の遊宴を禁ず(1743)

倭約令(1764廃止) (1744)

関東洪水、東北飢饉(1757)

江戸大火(1760)

関東の農民20万の大一揆(1765)

諸国干害(1767)

<大飢饉>

諸国干害(1767)

江戸行人坂の大火(1772)、お伊勢参り流行

疫病流行し天皇罹病(1773)

江戸大河橋(吾妻橋)成(1774)

伊豆大島(三原山)噴火(1778)

大隅桜島噴火(1779)、関東大洪水(1780)

浅間山噴火(1783)、諸国大飢饉

(天明の大飢饉~1788)

奥州大飢饉、死者10万(1784)

江戸大火、江戸開府以来の関東大水害(1786)

西蝦夷地を幕府の直轄領とする。松前奉行を置く(1807)
江戸湾沿岸に砲台修築竣工。間宮林蔵、榎太を探検(1808)

條約令(1787)

京都大火、皇居炎上(1788)

江戸の銭湯に男女の混浴を禁じる(1790)

百姓の強訴を禁じる(1798)

美作但馬の一揆(1796)

ナポレオン皇帝即位(1804)

出羽大地震、象潟湖崩れる(1804)

江戸大火(1806)

神聖ローマ帝国滅ぶ(1806)

諸国飢饉(1810)

ナポレオンのロシア遠征失敗(1812)

強訴・徒党再禁止(1811)

浪人取締令(1812)

ギリシャ独立戦争(1821)

畿内・東海道暴風洪水(1816)

モンロー主義宣言(1823)

西国にコレラ流行(1822)

フランス7月革命(1830)

諸国干害(1823)

江戸大火(1829)

京畿大地震(1830)

京都にエライこっちゃ踊り流行(1833)

條約令(1842)

信濃善光寺付近大地震(1847)

フランス二月革命(1848)。

近畿風水害(1852)

共産党宣言発表(1848)

関東大地震(1853)

クリミア戦争(1854~56)

下田地震、大津波(1854)

江戸大地震(1855)、藤田東湖圧死

ムガール帝国滅亡(1858)。

コレラ流行、死者3万(1858)

イギリス、インドを併合(1858)

安政の大獄(1859)

南北戦争(1861~65)

北会津農民一揆(1859-63)

リンカーン奴隷解放(1863)

江戸・大坂に打ち壊し運動(1866)

資本論1(マルクス)

異国船打払令(1825)

水野忠邦、老中となる(1834)

1837 イギリス船蝦夷地に来航(1831)

(12) アメリカ船、浦賀入港、打払令(1837)

家慶 アヘン戦争を報じ来たる(1840)

<16> フランス船、琉球に来港(1844)

米使ペリー浦賀来航(1853)

(13) 1853 日米和親条約、日英、日露(1854)

日米修好通商条約(1858)締結

<5>

江戸大火(1829)

京畿大地震(1830)

京都にエライこっちゃ踊り流行(1833)

條約令(1842)

信濃善光寺付近大地震(1847)

フランス二月革命(1848)。

近畿風水害(1852)

共産党宣言発表(1848)

関東大地震(1853)

クリミア戦争(1854~56)

下田地震、大津波(1854)

江戸大地震(1855)、藤田東湖圧死

ムガール帝国滅亡(1858)。

コレラ流行、死者3万(1858)

イギリス、インドを併合(1858)

安政の大獄(1859)

南北戦争(1861~65)

北会津農民一揆(1859-63)

リンカーン奴隷解放(1863)

江戸・大坂に打ち壊し運動(1866)

資本論1(マルクス)

西蝦夷地を幕府の直轄領とする。松前奉行を置く(1807)

江戸湾沿岸に砲台修築竣工。間宮林蔵、榎太を探検(1808)

江戸の銭湯に男女の混浴を禁じる(1790)

百姓の強訴を禁じる(1798)

美作但馬の一揆(1796)

ナポレオン皇帝即位(1804)

出羽大地震、象潟湖崩れる(1804)

江戸大火(1806)

神聖ローマ帝国滅ぶ(1806)

諸国飢饉(1810)

ナポレオンのロシア遠征失敗(1812)

強訴・徒党再禁止(1811)

浪人取締令(1812)

ギリシャ独立戦争(1821)

畿内・東海道暴風洪水(1816)

モンロー主義宣言(1823)

西国にコレラ流行(1822)

フランス7月革命(1830)

諸国干害(1823)

江戸大火(1829)

京畿大地震(1830)

京都にエライこっちゃ踊り流行(1833)

條約令(1842)

信濃善光寺付近大地震(1847)

フランス二月革命(1848)。

近畿風水害(1852)

共産党宣言発表(1848)

関東大地震(1853)

クリミア戦争(1854~56)

下田地震、大津波(1854)

江戸大地震(1855)、藤田東湖圧死

ムガール帝国滅亡(1858)。

コレラ流行、死者3万(1858)

イギリス、インドを併合(1858)

安政の大獄(1859)

南北戦争(1861~65)

北会津農民一揆(1859-63)

リンカーン奴隷解放(1863)

江戸・大坂に打ち壊し運動(1866)

資本論1(マルクス)

1885 内閣制度実施(m18)。 ええじゃないか運動名古屋に起こり各地に波及(1867)
1889 大日本帝国憲法発布(m22)。 全国に農民一揆(1868)
1890 第1回帝国会議開く(m23)。 華族・士族・平民の別を定める(1869)

日清戦争(1894-1895)

平民の苗字を許す(1870)

スエズ運河開通(1869)
普仏戦争(1870~71)
英領インド帝国成立(1877)

1900 北清事変(m33)

三国同盟(1882)

1902 日英同盟成立(m35)

仏領インドシナ連邦(仏印)成立(1887)

1904 日露戦争(m37/38)

1906 南満州鉄道株式会社創立(m39)

清朝滅ぶ(1894-5)

1914 第一次世界大戦(t3-18)

1918 シベリア出兵(t7)。米騒動。

1920 国際連盟加入(t9)。

1923 関東大震災(t12)。死者20万、焼失40万戸。

外堀埋める

1925 治安維持法・普通選挙法公布(t14)

1927 金融大恐慌起こる(s2)

1931 満州事変(s6)。

1932 五・一五事件。満州国建国(s7)

1933 国際連盟脱退(s8)

1936 ニ・二六事件。日独防共協定締結(s11)

1937 日中戦争起こる(s12)

1950 朝鮮戦争起こる。警察予備隊設置。

1938 国家総動員法令発令(s13)

1951 サンフランシスコ平和条約調印

1939 第二次世界大戦(s14)~1945

1964 東京オリンピック(s39)

1941 太平洋戦争(s16-s20))

1972 沖縄返還。日中国交正常化する()。

1945 ポツダム宣言受諾。降伏文書調印

1973 石油ショック

1946 日本国憲法公布

1979 東京サミット

1947 6.3 3制新教育実施

1989 昭和天皇崩御

<復興>

5. 明治初期戸数・人口表 (明治7年)

2023/2/4 - 某電

	人口										戸数				
	合計	華族	士族	卒	旧神官	僧	尼	平民(男女)	総計	寄X	戸	寺	社		
全国 (65ヶ国)	33,625,640	2,891	1,883,265	7,246	8,914	198,435	7,680	31,514,836	7,331,043	69,890	7,060,637	79,114	121,401		
上位10ヶ国計	10,084,033	2,246	653,503	1,002	859	54,822	2,423	9,437,745	2,228,882	29,426	2,137,795	22,375	39,684		
(10ヶ国%)	30	78	35	14	10	28	32	30	30	42	30	28	33		

10ヶ国	合計	人口										戸数				
		華族	士族	卒	旧神官	僧	尼	平民(男女)	総計	寄X	戸	寺	社			
越後	1,368,782		37,238			11,582	139	1,319,223	273,647	64	263,768	2,893	6,922			
淡路・阿波・讃岐	1,266,195		63,035	994		4,839	301	1,266,195	292,711	113	287,026	1,813	3,759			
愛知 (愛・三河)	1,217,521	4	47,309	8	236	10,481	1,251	1,158,232	292,415	852	282,737	3,991	4,835			
千葉	1,043,189		30,561			4,572	145	1,007,911	197,897	1,556	187,298	3,897	5,146			
肥後	957,790	8	97,299			5,617	32	854,834	185,007	5,210	172,489	2,559	4,749			
広島(安芸・備後)	941,978		26,042			4,395	15	911,526	216,984	62	211,281	954	4,687			
山口 (周防/長門)	836,419		73,705			5,942	188	756,584	193,823	216	189,362	1,447	2,796			
東京(武蔵)	830,917	2,234	52,757			4,057	138	771,731	214,751	15,682	196,500	2,262	307			
鹿児島(大隅/薩摩)	812,329		204,143		623			607,561	176,440	461	174,245		1,734			
熊谷	808,913		21,414			3,337	214	783,948	185,007	5,210	172,489	2,559	4,749			
(10ヶ国計)	10,084,033	2,246	653,503	1,002	859	54,822	2,423	9,437,745	2,228,882	29,426	2,137,195	22,375	39,684			

華族：1869 (明治2年)、皇族の下、士族の上に置かれた俗称。始め旧公卿・大名の家系の身分呼称にすぎなかったが (旧華族)、84年華族令により維新の功臣後には実業家にも適用され、公・侯・伯・子・男の爵位を授けられて、特権を伴う社会的身分となった。

1947年現憲法施行により廃止。

士族：士分の家柄。また、その人。明治維新後の族称の一つで、華族の下、平民の上。旧武士身分の平士以上で、法律上の特権はなかった。

1947廃止。 卒：下級の兵士。雑兵。

6. 世界・日本の人口データ

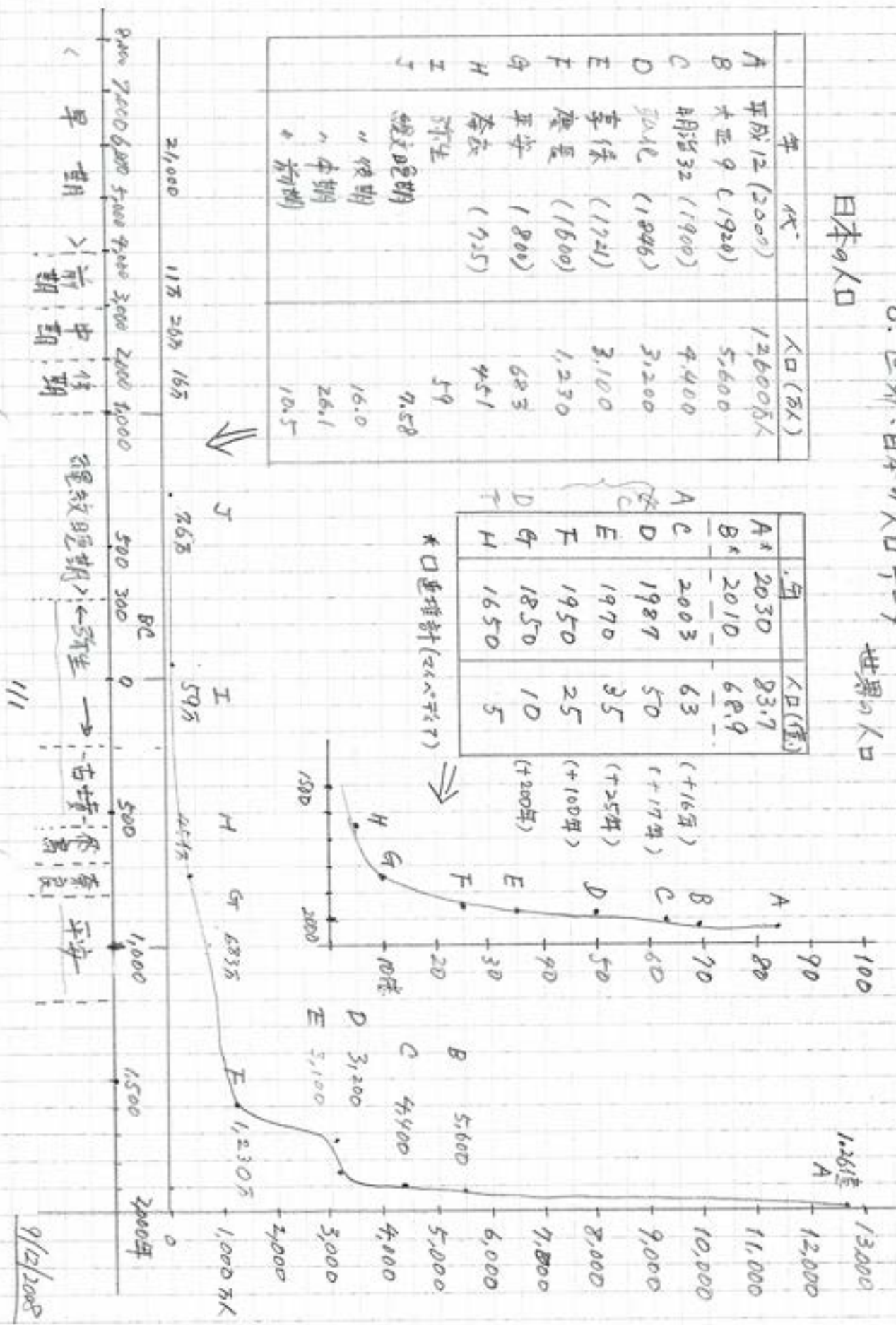
日本の人口

世界の人口

年	代	人口(万人)
A	平成12 (2000)	12,600万人
B	大正9 (1920)	5,600
C	明治32 (1900)	4,400
D	明治 (1896)	3,200
E	保元 (1721)	3,100
F	享徳長 (1600)	1,230
G	平安 (800)	683
H	奈良 (725)	451
I	生	59
J	縄文晩期	9.58
	" 晩期	16.0
	" 中期	26.1
	" 前期	10.5

年	人口(億)
A*	2030
B*	2010
C	2003
D	1987
E	1970
F	1950
G	1850
H	1650

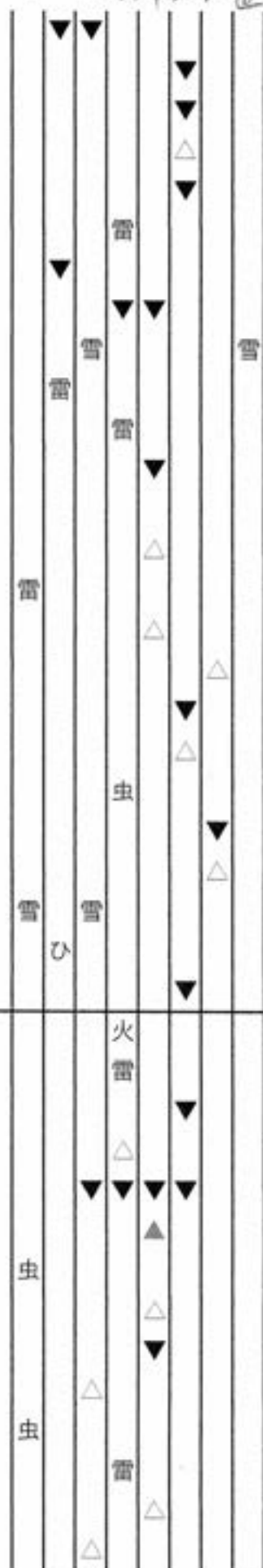
*人口推計(推定)



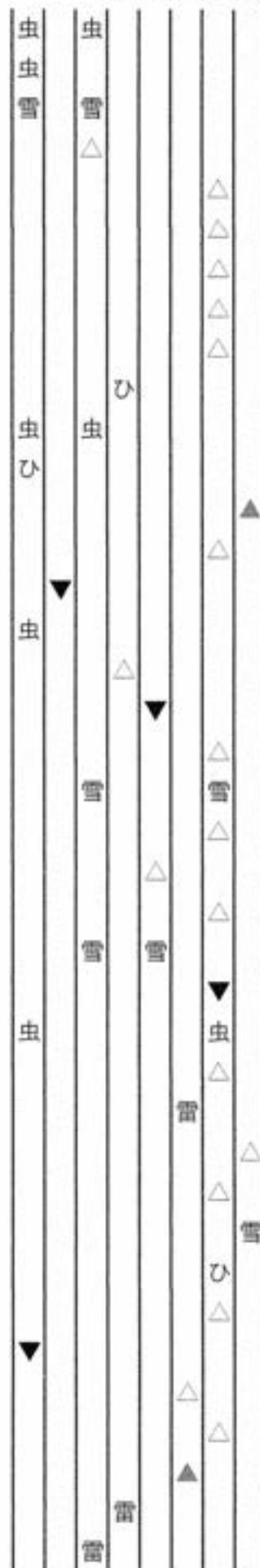
9/12/2008

- 1649 ▼ 伊予・安芸に地震(7/30)。M = 7.1。
- ▼ 武蔵・下野に地震(7/30)。M = 7.1。余震毎日4-50回。
- ▼ 江戸・川崎に地震(9/1)。M = 6.4。江戸城破損、大名屋敷民家破損。
- 1657 火 江戸大火(明暦大火)(1/18)
- 1659 ▼ 岩代・下野で地震(4/21)。M = 6.7。会津28人、那須11人死亡。
- 1660 雷 大阪城火薬庫に落雷、被害大
- 1661 ▼ 高知に地震(12/10)。M = 6.1。場内破損。
- 1662 ▼ 近畿・中部・東海に地震(6/16)。M = 7.6
- 雪 北海道・島根大雪(冬)
- 雷 高松城に落雷、武器多く灰燼
- 1665 雷 大阪城に落雷(2/16)。天守全焼。
- 1666 ▼ 越後に地震(2/1)。M = 6。積雪15尺、侍屋敷700余壊。
夜半火事、1500人死亡。
- 1672 火 三重火災(3/17)。555戸消失。
- 雷 熊本落雷(3/17)。48人死亡。
- 1675 火 富山西田火災(4/19)。千数百戸焼く。
- 1676 火 秋田火災(6/5)。500戸焼失。
- 1677 ▼ 千葉などに地震(11/4)。M = 7.4
- 1682 火 江戸大火(1/28)(翌年、八百屋お七事件)
- 1691 虫 和歌山で虫害発生(秋)
- 1694 ▼ 能代地方に(6/19)。M = 7.0
- 火 山形鶴岡で火災(8/29)。730戸消失
- 1695 雪 山口・熊本・島根で大雪(1/15-30)。
- 1696 ひ 京都・四国に降ひょう(5/20-21)。被害は1000町歩以上。
- 1697 ▼ 相模・武蔵に地震(11/25)。M = 6.9。鶴岡八幡宮の鳥居倒れる。

- 1701 火 三重大火、1050戸焼失(3/15)。
- 雷 京都に大雷雨、落雷100余箇所(7/25)
- 1703 ▼ 江戸、武蔵に地震(12/31)。M = 8.2(元禄地震)
- 1706 火 三重大火、1050戸焼失(3/15)。5800戸焼失(3/15)
- 1707 ▼ 五畿七道に地震(10/28)。M = 8.4(宝永地震)
- ▲ 富士山爆発(12/16)。噴出物総量8億m³
- 1710 虫 福岡でうんか発生、大被害おきる(7月)
- 1711 火 三重大火、1315戸焼失(5/31)
- ▼ 讃岐中部に地震(12/20)。M = 6.7、高松に被害。
- 1712 火 鳥取大火、960戸焼失(4/6)
- 1715 虫 福岡虫害ひどし
- 1717 雷 京都に落雷、40カ所余り(8/19)
- 火 三重大火、1261戸焼失(12/16)
- 1720 火 鳥取大火、1310戸焼失(5/10)

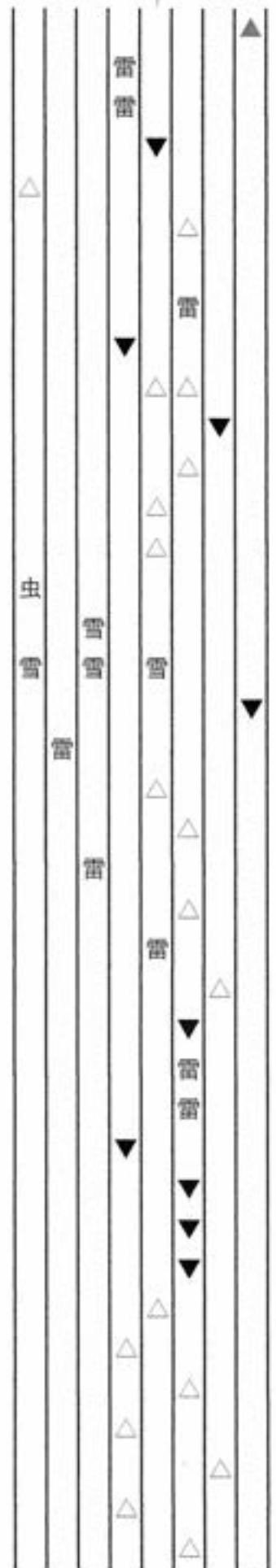


- 1722 虫 山口・福岡にうんか発生、害あり
- 1725 虫 福岡に虫害発生
- 1726 雪 鳥取・福岡に大雪(1/22)。3尺積もったところあり。
- 1727 火 鳥取大火、1925戸焼失(4/17)
- 火 山形酒田440戸焼失(5/13)
- 1729 火 岩手盛岡大火、1933戸焼失、6人死亡(4/29)
- 1730 火 秋田大町大火、1120戸焼失(5/22)
- 火 秋田横手600戸焼失(8/12)
- 1733 火 秋田で火災、790戸焼失(3/17)
- ひ 京都・奈良に降ひょう(5/6)、被害1000町歩越える。
- 1736 虫 鳥根・佐賀にうんか発生 (夏)
- 1737 ひ 福岡にひょう害(4/24)、被害1000町歩を越える。
- 1741 ▲ 北海道大島噴火(8/23)。津波による死者1467人。
- 1748 火 盛岡で火災、480戸焼失(4/26)
- 1749 ▼ 伊予に地震(5/25)。M=7.0。宇和島城楼破損
- 1750 虫 佐賀に虫害
- △ 二条城天守、雷火で炎上(9/26)
- 1751 ▼ 富山・新潟に地震(5/20)。M=6.6。新潟2000人死亡。
- 火 山形酒田大火(9/25)、2405戸焼失、80人死亡
- 1752 雪 鳥根・山口・福島に大雪 (1月)
- 1757 火 山形酒田大火、1479戸焼失(8/27)。
- 1759 火 富山500戸焼失(4/20)
- 1762 火 秋田550戸焼失、11人死亡 (6月)
- 1763 雪 福井・岐阜・鳥取大雪 (1月中-2月中)
- 1766 ▼ 津軽に地震(3/8)。M=6.9
- 1767 虫 岩手・九州で虫害発生
- 火 秋田800余戸焼失、19人死亡(6/29)
- 1768 雷 江戸竹橋門に落雷、93間焼ける
- 火 北海道江差342戸焼失、2人死亡 (9月)
- 1769 火 秋田595戸焼失(3/21)
- 雪 北海道雪害、3人死亡(5/10)
- ひ 青森でひょう害(5/10)、1000町歩以上、47人死亡
- 1770 火 秋田914戸焼失(4/19)、秋田840戸焼失(5/2)
- 1771 ▼ 八重山地震、津波 m=7.4
- 1772 火 東京目黒行人坂の大火
- 火 山形酒田大火、2183戸焼失(5/17)
- 1777 ▲ 三原山噴火 (-79)
- 1778 雷 大阪四天王子五重塔に落雷(7.16)
- 雷 岡山大隣寺本堂、雷火で焼失(7/22)



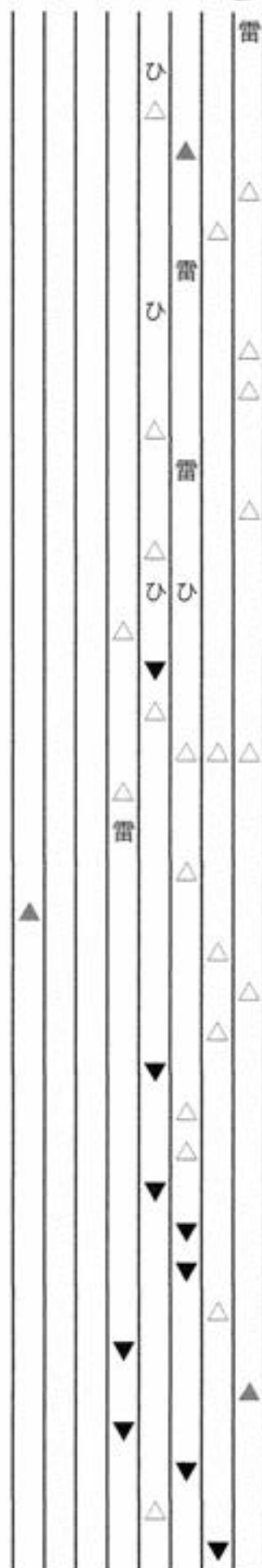
1779	▲ 桜島噴火、死者153人	▲					
1783	火 秋田大火、1956戸焼失(4/2)、同じく秋田524戸焼失(6/27)						△
	▲ 浅間山噴火(5/9-8/5)						▲
	雷 大阪城大手御門、雷火で焼失(11/5)			雷			
1784	雷 松山城雷火(1/22)		雷				
1786	火 東京大火、60313戸焼失(1/22-23)						△
	雷 北海道支利宇知社、雷火で焼失(4月)						雷
	虫 島根・福岡に虫害発生	虫	虫				
1788	雷 和歌山に強雷、26人死亡(8/18)			雷			
1790	▲ 富士大火、1200戸焼失					▲	
1791	火 富士450戸(3/26)					△	
	雷 宮城に雷の害あり、12人死亡(11/11)						雷
1792	▲ 雲仙岳噴火	▲					
1797	雷 福岡落雷、55カ所(7/30)	雷					
1798	火 鳥取大火、1009戸焼失(5/5)			△			
1799	虫 佐賀うんか発生(夏-秋)	虫					
1800	火 富山火災、480戸焼失(5/11)						△
1801	火 鳥取火災、青谷682戸焼失、2人死亡(4/2)			△			
	ひ 長崎にひょう害、1000町歩以上(11/28)	ひ					
	雪 鳥取、島根大雪(2/13)			雪			
1802	雷 四天王寺、落雷で焼失(1/7)				雷		
	火 秋田火災、401戸焼失(7/4)。						△
	▼ 佐渡に地震(12/9)。M=6.6、海岸25kmにわたり隆起。					▼	
1804	火 富山大火、2000戸焼失(4/13)					△	
	▼ 象潟地震(7/10)、m=7.1					▼	
1806	火 東京火災、530戸焼失、1200人死亡(3/4-5)						△
	火 盛岡火災、541戸焼失(4/10)						△
	雷 鳥取御城太鼓門に落雷、多くの門を損ず(8/6)			雷			
1807	火 山形大火、鶴岡938戸焼失(5/11)						△
	雷 金澤の甲斐守殿玄関高箱棟の上に落雷(10/3)				雷		
1808	ひ 山形にひょう害、1000町歩以上(8/20)						ひ
1809	雷 江戸に落雷、山の手数10カ所(8/28-9/18)						雷
1810	火 鳥取大火、矢津村1235戸焼失(5/21)			△			
	▼ 秋田に地震(9/25)。M=6.6						▼
1813	火 鳥取大火、2436戸焼失(8/18)			△			
1819	火 山形大火、1000戸焼失(5/20)						△
	火 鳥取大火、1252戸焼失(5/24)			△			
	▼ 美濃・近江に地震(8/2).m=7.4					▼	
1821	火 富山大火、1100戸焼失、死者数十人(4/20)						△

- ▲ 有珠山噴火
- 1828 雷 岸和田城天守に落雷(1/6)
- 雷 京都大仏殿、雷火で焼失(8/11)
- ▼ 新潟に地震(12/18)。M=6.9
- 1829 火 福岡・久留米477戸焼失(3/10)
- 火 東京大火、佐久間町36万9512個焼失、2795人死亡(3/21-22)。
東京の繁華街を全焼する。
- 1830 雷 江戸雷・降ひょう(5/21)。未聞のおおきいひょう降る
- ▼ 京都などに地震(8/19)。M=6.4
- 1831 △ 富山大火、西田地方8341戸焼失(5/23)
- 1833 ▼ 山形に地震(12/7)
- 1834 火 東京大火、4000人死亡
- 火 富山火災、魚津670戸焼失(3/30)
- 1835 火 富山火災、放生津500戸焼失(4/28)
- 虫 鹿児島にうんか発生(秋)
- 1836 雪 山口・佐賀に大雪(2/9-10)
- 1841 雪 富山・島根・福岡大雪(春)
- 1843 地 北海道に地震(4/25)。M=8.4
- 1844 雷 香川・愛媛・福岡に強雷(10/20)
- 火 富山火災、滑川700戸焼失(10/24)
- 1845 火 東京大火、500戸以上焼失3400人死亡(1/24)
- 雷 島根に強雷、5人死亡(7/22)
- 1846 火 東京大火、1000戸以上焼失、200人死亡(1/15)
- 雷 新潟雷雨、40人死亡(7/28)
- 1847 火 山形火災、600戸焼失
- ▼ 善光寺地震(5/8)。M=7.4
- 1850 雷 江戸近辺落雷、100カ所(9/13)
- 1851 雷 江戸落雷、30余カ所(9/13)
- 1854 ▼ 三重・奈良地震(7/9)。M=6.9
- ▼ 安政地震(12/23)。M=8.4
- ▼ 安政地震(12/24)。M=8.4
- 1855 ▼ 江戸地震(11/11)。M=6.9
- 火 富山6803戸焼失(4/18)
- 1856 火 和歌山1600戸焼失(1/22)
- 1858 火 東京3000戸焼失(11/15)
- 1863 火 富山6991戸焼失(9/28)
- 1864 火 米沢1248戸焼失(5/20)
- 1866 火 富山1000戸焼失(9/28)
- 火 茨城1000戸焼失(12/10)



1867	雷	福岡落雷、4人死亡(8/27)						
1868	火	横浜1200戸焼失(1/7)						△
	火	神奈川1250戸焼失(5/15)						△
	火	長岡2900戸焼失(5/19)				△		
1869	火	川越1500戸焼失(2/16)						火
	火	千代田区2920戸焼失(2/26)						△
	火	中央区3400戸焼失(12/28)						△
1871	火	函館1123戸焼失(9/2)						△
1872	火	千代田区2920戸焼失(2/26)						△
	▼	浜田地震(3/14)。M=7.1						
		東京弁財天池凍結(1月)						
1873	火	函館1314・横浜1600戸(3/22)、千代田区5752戸焼失(12/9)						△
1874	火	浜松1830戸(4/27)、島根雑賀町2000戸焼失(6/8)						△
1876	火	中央区8550戸焼失(11/29-30)						△
1877	雪	奈良大雪(3/23)。3-12日間降り続き街道2尺8寸の積雪						雪
1878	火	台東区4359戸焼失(3/17)						△
1879	火	高岡2000戸(3/3)、函館2326戸焼失(12/6)						△
1880	火	高崎2000戸(1/26)、中央区2120戸焼失(2/3-4)、弘前1500戸(5/10)、						△
	火	新潟2500戸(5/21)、5440戸(8/6)・5554戸(8/8)、						△
	火	大阪南区2989戸焼失(12/24)						△
1881	火	千代田区10637戸(1/26)・7307戸(2/11)						△
1883		和歌山酷暑-5.4度(2/9)						
	火	会津若松1500戸焼失(5/1)						△
1884	火	大阪東区1440戸(1/9)、水戸1200戸(5/13)、盛岡1432戸焼失(11/7)						△
1885	雪	東京・北陸・北海道大雪(1月)						雪
	火	中央区1320戸(3/12)、富山6402戸焼失(5/31)						△
1886	火	松本1100戸(2/9)、秋田3500戸(4/30)・3474戸(5/30)						△
1887	火	中央区1530戸焼失(12/19)						△
1888	火	松本1100戸(1/4)、横浜1100戸(1/31)、福井1100戸焼失(4/8)						△
1889	火	静岡1100戸(2/1)、横浜1600戸焼失(3/22)						△
1891	▼	濃尾地震(10/28)。M=8.4						▼
1894	火	山形1250戸(2/1)、横浜1092戸焼失(6/17)						△
	▼	東京湾北部に地震(6/20)。M=7.5						▼
	▼	山形に地震(10/22)。M=7.3						▼
1896	▼	三陸地震津波(6/15)。M=7.6						▼
	▼	陸羽地震(8/31)。M=7.4						▼
1897	虫	東北・山口・島根・福岡に虫害(9月)						虫
1898	火	文京区1478戸(3/23)、直江津1618戸焼失(6/4-5)						△
1899	火	福井1891戸(4/19)、富山4723戸焼失(8/12)						△

- 1900 雷 小樽落雷(10/28)、6人死亡(9/30)
- 1901 ひ 静岡降ひょう(5/12)
- 1902 火 福井3041戸焼失(3/30)
▲ 鳥島噴火(8月)。全島民死亡
- 1903 火 小樽1200戸焼失(4/26)
火 横手1200戸焼失(4/26)
雷 関東雷雨(5/26)
ひ 静岡・兵庫・山陰降ひょう(6/21-22)
- 1904 火 小樽2481戸焼失(5/8)
- 1905 火 北海道厚岸1200戸焼失(10/31)
- 1906 火 直江津1418戸焼失(7/11)
- 1907 雷 関東・東海落雷、降ひょう(6/21-22)
火 函館8977戸焼失(10/31)
- 1908 火 新潟1198戸(3/9)・2122戸焼失(9/4)
ひ 関東・長野などひょう害(6/8)、ひょうの最大3寸5分・35匁
- 1909 火 大阪北区11365戸焼失(7/31)
▼ 姉川地震(8/14)。M=6.9
- 1910 火 輪島港1620戸焼失(3.19)
- 1911 火 台東区6555戸(4/9)、山形1312戸(5/8)、小樽1251戸焼失(5/16)
- 1912 火 大阪南区5268戸焼失(5/16)
雷 岐阜・愛知落雷260カ所、14人死亡(8/13)
- 1913 火 千代田区2180戸(2/20)、沼津1451戸焼失(3/3)
- 1914 ▲ 桜島噴火(1/12)。村落埋没、死者58人
- 1915 火 気仙沼1040戸焼失(3/30)
- 1916 火 函館1763戸焼失(8/2)
- 1917 火 米沢2000戸焼失(5/22)
- 1918 ▼ 新潟"三俣なだれ"155人死亡(1/9)
- 1919 火 横浜3127戸焼失(4/28)、米沢1207戸焼失(5/19)
- 1921 火 台東区1287戸(4/6)、函館2141戸焼失(4/14)
- 1922 ▼ 北陸親不知付近なだれ、87人死亡(2/4)
- 1923 ▼ 関東大震災(9/1)。M=7.7
- 1924 ▼ 丹沢地震(1/15)。M=7.2
火 八戸1223戸焼失、160人死亡(5/16)
- 1925 ▼ 北但馬地震(5/23)。M=7.0、470人死亡
- 1926 ▲ 十勝岳噴火(5/24)。2村落埋没、死者144人、傷者200人
- 1927 ▼ 北丹後地震(3/7)。M=7.5、九州で虫害甚大(6-8月)
- 1930 ▼ 北伊豆地震(11/26)。M=7.0、272人死亡、2-5月伊東地震群
- 1932 火 静岡大宮町1300戸焼失(4/21)
- 1933 ▼ 三陸地震、津波(3/3)。M=8.3



- 1934 火 函館11102戸焼失、2094人死亡(3/21)
- 1936 雪 北陸・奥羽・北海道大雪(1-2月)
- 1940 火 静岡5121戸焼失(1/15)
- 1943 ▼ 鳥取地震(9/10)。M=7.4。死者1083人、家屋全半壊13643戸
- 1944 ▼ 東南海地震、津波(12/7)。M=8.0、死者998人。
火 住宅全半壊・流失76,139戸。
- 1945 ▼ 三河地震(1/13)。M=7.1、死者1961人他
- 1946 ▼ 南海地震(12/21)。M=8.1
- 1947 火 飯田3984戸焼失(4/20)
- 1948 ▼ 福井地震(6.28)。M=7.3、死者3895人、家屋全半壊・焼失50560戸。
- 1949 火 能代1414戸焼失(2/20)。死者3・傷者874人。
▼ 今市地震(12/26)。M=6.4、死者8人
- 1952 ▼ 十勝沖地震(3/4)。M=8.1、死者28人、不明5人。
火 家屋全半壊・流失2230戸、津波関東に及ぶ。
▼ 大聖寺沖地震(3/7)。M=6.8、吉野地震(7/18)
火 鳥取5228戸焼失(4/17)
- 1953 ▼ 房総沖地震(11/26)。M=7.5
- 1954 火 岩内町3300戸焼失(9/27)
- 1955 火 名瀬1365戸焼失(12/3)
- 1956 火 能代1475戸(3/20)、大館692戸(8/16-8)、魚津1755戸焼失(9/7-10)
- 1958 雪 全国的(特に関東)凍霜害、雪害(3/28-31)
▲ 阿蘇山噴火(6/24)。死者12人、傷者28人
火 鹿児島瀬戸内1628戸焼失(12/27)
- 1960 ▼ チリ地震津波(5/23)。M=8.5、死者119人、不明20人、
家全半壊・流失5013戸。
- 1961 火 宮城・岩手・青森火災(5/29)。建物1787戸、山林25,077ha焼失、
死者5人、傷者119人。
- 1963 雪 38年1月豪雪。死者92人、不明5人、傷者110人
- 1964 地 新潟地震(6/16)。M=7.5、死者26人他。
- 1965 ▼ 松代群発地震(8/3-)
- 1968 ▼ えびの地震(2/21)。M=5.7、死者3人、建物全半壊1004戸
▼ 十勝沖地震(5/16)。M=7.9、死者49人、不明3人、傷者330人、
建物全半壊3677戸、船舶流失沈没127、青森県下山崩れ多し
- 1974 ▼ 伊豆半島沖地震(5/9)。M=6.9、死者・不明29人、傷者78人
- 1976 火 酒田火災(10/29)。1774戸焼失、死者1人、負傷964人
- 1977 雪 全国的に雪害・凍害(76/12-77/2)。死者・不明75人
- 1978 ▼ 伊豆大島近海地震(1/14)。M=7.0、死者25人、傷者139人
▼ 宮城県沖地震(6/12)。M=7.4、死者27人、傷者1227人
- 1979 ▲ 御嶽山噴火

